

指導資料

鹿児島県総合教育センター

教育課程 第10号

- 幼稚園対象 -

平成13年11月発行

新教育課程への対応

- 教育課程の評価の在り方 -

新しい幼稚園教育要領は、[ゆとり]の中で「特色ある教育」を展開し、幼児に[生きる力]の基礎を育成することをねらいとしている。そして、「総則3教育課程の編成」の中で、「各幼稚園においては、法令及びこの幼稚園教育要領の示すところに従い、創意工夫を生かし、幼児の心身の発達と幼稚園及び地域の実態に即応した適切な教育課程を編成するものとする。」ことが示された。これにより、各幼稚園では、幼稚園や地域の実態を生かし、創意工夫した教育活動を展開し、これまで以上に特色ある幼稚園づくりを進めていくことができるようになった。

本県においても、新世紀カリキュラム審議会答申の中で、これからの鹿児島の学校に望まれる「学校づくりの視点」として、「責任を果たす学校」、「個性の花咲く学校」、「開かれた学校」、「郷土への理解を深め、愛情を培う学校」が示された。各幼稚園では、これらの「学校づくりの視点」を踏まえた上で、鹿児島の教育的風土を生かし、自らの地域や幼稚園の実情に即した主体的な教育実践に取り組み、特色ある幼稚園づくりに努めていかなければならない。

「特色ある幼稚園づくり」は、単発的に何

か特別なことをすることではない。各園のもつ環境を最大限に生かし、創意工夫して教育課程を編成し、より主体的に教育実践に取り組むことである。

しかし、それは、同時に各幼稚園で行う教育に関してこれまで以上に責任を求められることにもなる。各幼稚園においては、編成した教育課程が、めざす幼児像の実現に効果的であったかを適切に評価し、工夫改善していくが必要になる。しかし、これまで行われてきた教育課程の評価の中には、客観性に乏しいという問題点や、評価した結果が改善に十分生かされていないという実態を指摘されるものがある。

ここでは、各幼稚園が特色ある幼稚園づくりをめざし、責任ある教育を実施する上での一助となるよう教育課程の評価の在り方について述べる。

1 教育課程の評価に当たって

教育課程の評価は、各幼稚園の教育目標に照らして行うものであり、実施に当たっては、その内容や方法等について事前に十分検討する必要がある。

(1) 教育課程の評価の内容

教育課程の評価は、次のような内容を中心に、「幼児とのかかわり（幼児の変容する姿）」、「教職員とのかかわり（教職員同士の共通理解と協力）」、「家庭・地域社会とのかかわり（家庭・地域社会との連携と協力）」の三つの視点をもって実施することが大切である。

評価項目	評価単位
園の教育目標	目標の設定
	目標の具体化
教育課程編成の重点	目標達成の方針
	教育内容の重点化
	教育課題への対応
	ねらい・内容
指導の重点	指導計画
	指導内容・方法
	環境の構成
教育週数・教育時間	教育週数・時間
行事	園行事，関連行事

また、教育課程を編成、実施するために園の運営上どのような創意工夫を加えたかということも評価の対象とすることが大切である。

(2) 教育課程の評価の観点

教育課程の評価は、教育課程の編成、実施及び成果についての観点をあらかじめ設定して、組織的、計画的に行う必要がある。

その際、次のような観点が重要である。

幼稚園教育要領をはじめとする国及び教育委員会の示す指針の趣旨が十分生かされ、そこに示された基準が満たされているか。

園の教育目標が、園の教育活動全体を通じて十分追求され、成果を上げて

いるか。

幼児の実態に合った教育課程が編成、実施されているか。

教職員や施設・設備等の諸条件と適合するよう教育課程が編成、実施されているか。

小学校との連携を図っているか。

保護者や地域社会の期待に応えうる教育課程となっているか。

(3) 教育課程の評価の留意点

教育課程の評価の実施に当たっては、次のようなことに留意して実施していくことが大切である。

全教職員の共通理解を図り、協力して組織的に進めること。

教育課程の評価を年間計画に位置付けるなどして、計画的に進めること。

できるだけ多面的、継続的に評価することにより客観的な評価となるようにすること。

教育活動の達成状況を正しく判断できる、具体的で園の実態に即した基準を設定すること。

(4) 教育課程の評価の方法

教育課程の評価の方法としては、職員会議などで協議して評価したり、評価の項目ごとに評価尺度や選択肢を設定し、数量的処理を行ったりする方法などが考えられる。実施に当たっては、評価の内容やその後の処理等を考慮して適切な方法を工夫する必要がある。また、実施した評価を集約し、分析した結果について、職員会議等で共通理解を図り、具体的な改善策を検討していくことが大切である。

教育課程は、計画に基づいて実施していく中で、幼児の状況に応じて絶えず修正し、発展させていくべきものである。したがって、教育課程の評価は、教育活動の区切りに当たる学期末や学年末だけでなく、平素から心掛けて行うことも大切であり、改善できるところは学期途中でも改善するなど、結果をすぐに教育活動に生かしていくことが望ましい。例えば、園行事等については、終了後、その都度評価する必要がある。

2 教育課程の評価の実際

次は、A幼稚園における教育課程の評価の構想例である。

A幼稚園では、毎月実施している教育活動の反省・評価を、どのようにして学年末評価に反映させるかということが課題であった。そこで、年間指導計画に評価項目を入れた評価欄を設け、毎月の評価の積み重ねが学年末評価に生かされるようにした。そして、幼児の発達の見通しをもって行事を実施し、幼児の生活に生かせるような改善策を見いだすようにした。

(1) 教育課程の評価の手順

年間指導計画の立案

行事の実施

園行事等の教育活動の評価は、実施後すぐにアンケートを実施するなどして、課題とともに改善策を明確にしておく。

毎月の活動の反省・評価

評価結果の記録

学年末評価

教育課程の改善

(2) 「交通安全指導」の評価の例

ア 今年度の指導の重点を踏まえた評価項目を設定し、年間指導計画に評価欄を設けて記入する。

(ア) ねらい

日常生活に必要な交通ルールを身に付け、自分の命を守ることができる。

(イ) 今年度の重点

地域の実情を把握し、関係機関と連携しながら、幼児が日常生活に必要な交通ルールを身に付けられるようにする。

毎月の「ねらい」、「指導内容」、

「指導形態及び留意点」は省略

(ウ) 評価項目

【幼児とのかかわり】

- ・ 安全指導の必要性や意識等について幼児なりに理解されているか。
- ・ 横断歩道や道路の歩き方を身に付けられるようになったか。
- ・ 約束や決まりを守って行動するようになったか。

【教職員とのかかわり】

- ・ 指導内容・方法は適切であったか
- ・ 全教職員が共通理解した上で指導に当たれたか。
- ・ 地域の実態を把握して指導に生かすことができたか。
- ・ 公文書や様々な情報が有効に活用されたか。

【家庭・地域社会とのかかわり】

- ・ 家庭の理解や協力は得られたか。
- ・ 教育委員会、警察署等、関係諸機

関との連携や協力が図られたか。

- ・ 各家庭で、幼児の安全への意識を高めるような変化が見られたか。

イ 毎月の実施計画に評価欄を設け、年間指導計画の評価の観点や項目に基づき、実施後、反省、評価し、担当者が記録する。

11月安全指導の評価の記録

【幼児とのかかわり】

- ・ 3歳児... 3歳児なりに紙芝居の内容は理解していた。
- ・ 4歳児... 警察署の人の話の後、実際に信号を見たので、よく分かった。
- ・ 5歳児... 警察署の人の話と実地指導は幼児にも分かりやすかった。

【教職員とのかかわり】

- ・ 3歳児... 事故の怖さや交通ルールを守ることの大切さを教える指導は、繰り返し行う必要がある。
- ・ 4歳児... 実際の行動を繰り返すことで理解が深まった。
- ・ 5歳児... 警察署の人の話は地域の具体的な内容であったため、指導に生かすことができた。

【家庭・地域社会とのかかわり】

- ・ 3歳児... 自分から保護者と手をつなぐようになった。
- ・ 4・5歳児... 保護者は、幼児の姿を見ながら信号の見方を知らせるなど協力的であった。

ウ 担当者は、毎月の評価を整理し、問題点を明らかにして、改善策を立案する。

エ 学年末評価の職員会議を開き、改善策を協議し、共通理解を図る。

A 幼稚園では、安全指導においては家庭の

意識をどう高めていくかが評価に大きく影響しているという結果を踏まえ、今後、安全指導の内容を保護者にきちんと伝えていくことを共通理解した。

3 教育課程の改善

教育課程の評価は、教育課程の改善を図り、教育効果を高めることを目的として実施する。したがって、評価の結果を教育課程の改善のためにどう生かしていくのが重要である。

教育課程の改善は、一般的には次のような手順で行っていくことが考えられる。

評価の資料を収集し、検討する。

整理した問題点を検討し、原因と背景を明らかにする。

改善案をつくり、実施する。

現在、各幼稚園には、教育課程の編成や実施状況等について、保護者や地域住民にもきちんと説明していく責任が求められている。これまで述べてきたように、各幼稚園では、園や地域の特色を生かし、幼児の実態に即した責任ある教育活動が実施できるように、教育課程の評価を適切に行っていく必要がある。そのためには、日々の教育実践の中で絶えず幼児の状況を把握し、その状況に応じて教育活動を見直し、改善していこうとする教師一人一人の意識と自覚が大切である。

【引用・参考文献】

文部省『幼稚園教育要領解説』平成11年

『鹿児島県の特色を生かした教育課程の在り方について

(答申)』平成13年 新世紀カリキュラム審議会

(新教育課程の編成に関する検討委員会)